

研修Ⅱ 仲善 ともに学び合い、一人ひとりの考えを深める国語科学習の展開  
子どもの関わりを促す支援の工夫

「物語の『おもしろい』『すてき』を見つけよう」の学習を通して（東京書籍3年）

## 1 提案の概要

### (1) 主張点

- ・ 目的意識のある言語活動の中で、子どもの考えを深めていく授業研究を進める。
- ・ 学び合う必要感を生む視点を大切にしつつ、特に、発達段階などに応じた学び合うための形態や子どもの関わらせ方に焦点を当てて授業改善を進める。

〈授業作りの3つの視点〉

- ① 学び合う必要感
- ② 学び合うための形態
- ③ 学び合うための関わらせ方

### (2) 具体的な実践

#### ① 学び合う必要感

- ・ 単元化…物語の「おもしろさ」「すてき」を探しながら読み、「おもしろすてきミニブック」を作成するという言語活動を設定した。
- ・ 「物語のしかけや人物のすてきなところを見つける」という目的意識を明確にするために、見つけたことを「おもしろすてきミニブック」に記録していった。ブックに書きたいことを見つけようという思いで、ペア・グループでの学び合いや全体での学び合いに参加するため主体的な学習となった。

【単元の流れ】

①教師が作成した見本を提示

→②学習計画を子どもと作る。

→③「おもしろい」「すてき」を本文から見つけ、グループで話し合う。

→④毎時間、「おもしろすてきミニブック」に、見つけたことを書き込んでいく。

→⑤完成したブックを読み合い物語のしかけや人物について考えたことをふり返る。

#### ② 学び合うための形態

- ・ 学習の流れをパターン化することで、子どもに見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませるようにした。
- ・ 深く考えさせたい時や、自分の考えに自信を持ってない子どもが多い時は、30秒～2分程度のペア交流を設けた。
- ・ グループの話し合いで出た意見を全体交流で発表する前に、黒板にグループのカードを貼った。カードを基に質問することで、全体の交流が生まれた。

#### ③ 学び合うための関わらせ方

- ・ 考えを可視化するために、イメージマップとワークシートを活用した。

美月の正体がウサギだというしかけを見つけるために、ウサギからイメージする言葉をイメージマップに表した。このイメージマップを「おもしろみつけミニブック」の最初のページにまとめておくことで、見つけたしかけを友だちに説明する際に、イメージマップをもとに理由を話すことができた。

教科書の本文をワークシートにし、見つけたしかけには赤線、人物のすてきなところには青線を引き、そう考えた理由を、下のスペースに書きこむようにした。グルー

プで話し合う際、ワークシートを見せ合うことで、自分の考えと友だちの考えを容易に比べることができた。

- ・ 「自分の考えを話す時」、「友だちの考えを聞く時」、「ふり返りの時」のそれぞれについて、どのように話すとよいか、話型を掲示した。自分の考えが持てなかった子どもも、どこでもやもやしているのかを伝えることで、グループ交流に参加し、考えを広げたり深めたりすることができた。
- ・ 「マイ指し棒」があると、指し示しながら友だちの方を向いて話ができ（相手意識）。聞いている側も何について話をしているのか注目しやすかった。

#### ④ 学習環境づくり

- ・ 最初に見つけていたしかけを黄色カードで、学習が進むにつれて見つかったしかけをピンクカードで前面に掲示していった。
- ・ 教科書の全文を側面に掲示し、学びの足跡を残した。場面ごとの読み取りではなく、前の場面をふり返ったり、次の場面とつないだり、物語を行ったり来たりしたりしながら学習を進めることができた。
- ・ 町立図書館等から借りた本（茂市久美子さんの本や、しかけのある物語）を用意し、おすすめの本を紹介する場を設けた。

## 2 成果

- 単元を通して「おもしろすてきミニブックを作ろう」という言語活動を設定したため、しかけを見つけるという活動にとどまらず、登場人物の言動等について自分が心ひかれるところを見つけながら、人物像を中核に読むことができた。つけたい力と子どもの意識の流れが一致していたため、無理なく取り組ませることができた。
- 学び合いでは、本文に色分けした線を引いたワークシートやイメージマップが有効であった。本文の言葉に着目し、色分けして線を引くという活動は、うまく理由を書いたり説明したりできない子どもにとって、グループ交流に参加するきっかけとなりうることがわかった。
- 茂市久美子さんの本やファンタジーの本を進んで読む子どもが増えた。

## 3 課題

- しかけを見つける活動では、場面を行ったり来たりした読みができたが、人物のすてきなところを見つける活動においては、場面ごとの読みになりがちであった。場面と場面をつないで考えることで、人物の行動の理由や、そこにこめられた思いがもっと深くとらえられる。
- 授業時間を気にかけ、グループの考えを集約して全体交流に持ち込もうとしたため、個の考えが生かされなかった。今回の話し合いでは、友だちの考えを聞いて、考えを広げることを目指したかった。一人ひとりがネーム磁石を置くとよかった。
- 「おもしろすてきミニブック」が完成後、読み合う活動を計画していたが、ブックに書く内容について、たくさん書くとよいのか、精選したものを書くときよいのか、子どもたちの目的意識がはっきりしていなかった。